

第4回「こども条例(仮)」を考える市民ワークショップ

【日時】 令和6年2月21日(水) 午後19時00分～20時40分

【場所】 市役所2階 201・202会議室

【出席】 20名
市民14名(うち1名Zoom)、事務局6名

【概要】

令和6年度「こども基本法」に基づく市の「こども計画」の策定を予定するなか、その前段階(前提)として市議会から政策提言も受けた「こども条例(仮)」の整備に向けた検討があるべきと考えたもの。

約1年間をかけ、市民の参画や関与を得て、より良い取組み内容とするよう、誰でも参加できる市民ワークショップとして第4回目を開催した。(毎月1回程度開催を予定)

【詳細】

1. 開会あいさつ(子育て支援課長)

昨年11月からワークショップを開始し、総論としては最後の予定の回と考えている。

児童センター児童館での当事者のヒアリングを並行して進めている。資料や議事録のアーカイブ(HP公開)も進めていく。

意見はできるだけ取入れるために聴いているため、よろしく願いたい。

2. 自己紹介(氏名、所属団体など)

3. 資料説明(子育て支援課長)～意見交換

テーマ「仮想ゴール(目指す姿など)を想定、共有しよう」

スクール形式で全体の説明を受けた後、3グループに分かれて、意見交換を行った。

最後、グループ毎にどのような話が出たか、全体で共有して終了した。(別紙のとおり)

次回第5回は、3月22日(金)同時刻、地下市民ホールで開催予定

意見のまとめは別紙のとおり

以上

1. 目指すまちの姿（仮想ゴール）

<対象>

- ・目指す「まち」では大きすぎるイメージのため、目指す「状態（姿）」の方が分かりやすいのでは
- ・目指す「まち」ではなく、それぞれに身近で大切な場所といったニュアンスで「ふるさと」が良いのではないか

<こどもまんなか>

- ・「まち」が中心ではなく、こどもが中心となった姿を目指す必要がある
- ・大人が導くなかでも、主役はこどもであるべき
- ・こどもが住みやすいまちは、大人も住みやすい
- ・こども達に選択の自由があることが重要
- ・こどもが幸せになるまち
- ・すべてのこどもが尊重されるまち
- ・こどもが安全で生きやすいまちが、こども（みんな）の幸せにつながる
- ・すべてのこどもが尊重されることが大事で、それがないと存在、安全・安心、権利といったことも崩れていくため、こどもの権利が守られることを前面に打ち出してはどうか
- ・どんな状況のこどもも取り残さない、全てのこどもの「今」を大切に

<つながり>

- ・近所づきあいなど地域のつながりが薄くなっており、以前の良かった（人と人の温かい結びつきがあった）部分は取り戻していきたい
- ・周りの人に頼っても良いんだよ、頼りやすいという雰囲気づくりが必要
- ・お互いさま、持ちつ持たれつ
- ・老若男女を問わず、つながりを持てるとよい
- ・みんながつながる

<笑顔>

- ・誰もが笑顔でいられる
- ・こどもの笑顔が未来をつくる
- ・みんなが楽しんで作れると良い

<自分らしく>

- ・自身の団体では、「誰もがありのままの自分で居られる（自分も相手もつくろわなくてもよい）」といった視点を、基本理念に置いている
- ・ありのままを認め合えるまちが、幸福度が高いのでは
- ・あなたも私もどちらも大切
- ・誰もががあるがままに生きている世界を目指すべき
- ・すべての人を取り残さない

<具体案>

- ・キラキラのミライを創ろう
- ・みんな（こども）キラキラのやさしい未来
- ・みんなで作ろう！キラキラなふるさと
- ・あなたの未来はあなたのもの～いいんやよ、そのまんまで～（飛驒弁を使うと良いのでは）
- ・みんなで作る、とものつくるまち（協働）

<その他>

- ・誰かが作ってくれるのではなく、「僕や私、みんなでつくろう」といった主体性が重要と考える
- ・迷ったときに、誰もが問い直せるもの（立ち帰られる）指針になると良い
- ・やってみよう、ありのままに、なんとかなるさ、ありがとうの4つの因子を大事にしていくことが well-being に繋がる近道
- ・持続可能なまち
- ・こどもだけではなく、妊娠期の母親も考える必要あり
- ・行政と民間のギャップがあり、連携が弱いため、行政が門戸を開いて民間と協働することが大切
- ・市民に向けたスローガンなのか、市外に向けたアピールの言葉なのかで、言葉が変わってくるのではないか
- ・宣言して終わりにしてほしくないので、条例にして、強く打ち出してほしい
- ・「日本一、子育てしやすいまち」と宣言できれば、全国にアピールできるのでは

2. 分類

- ・健康でないとエネルギーが出ず、前向きにならない「元気な心、元気な体」
- ・安心・安全が重要なので、ホッと安心できる（一息つける）場所（保護者支援、経済支援の2つに分けるべきという意見もあった）
- ・自由（フリーダム）な発想で、こども達からの発信が重要
- ・誰も取り残さない
- ・自分達がともに創っていくことが大事